令和３年度

環境活動レポート

〔 対象期間：令和3年4月～令和4年3月 〕

作成年月日　　　　　R4. 06. 01

札幌第一清掃株式会社
発寒エコセンター

代表取締役　笠野博史　印

URL:　http://www.daiichiseisou.co.jp/

目　次

1 組織の概要 …… 3

2 対象範囲 …… 6

3 環境方針 …… 7

4 環境目標 …… 8

5 環境活動計画 …… 8

6 環境目標の実績 …… 9

7 環境活動結果とその評価、次年度の取組内容 …… 10

8 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価並びに違反、訴訟等の有無 …… 11

9 代表者による全体評価と見直しの結果 …… 11

1 組織の概要

事業所名　札幌第一清掃株式会社
代表者名　代表取締役　笠野博史

所在地

本社　〒063-0804　北海道札幌市西区二十四軒4条2丁目2番1号
発寒エコセンター　〒063-0833　北海道札幌市西区発寒13条12丁目1番1号
発寒リサイクルセンター　〒063-0830　北海道札幌市西区発寒10条12丁目1番1号
車庫　〒063-0803　北海道札幌市西区二十四軒3条1丁目2番49号

設 立　昭和42年6月24日
資本金　3000万円
事業年度　6月1日～5月31日
事業内容　家庭系一般廃棄物収集運搬委託業務
事業系一般廃棄物収集運搬代行業務
産業廃棄物収集運搬業務、産業廃棄物処分業務
古紙回収業務

事業の規模

区分＼年度		R1年度	R2年度	R3年度	単位
産廃等処理量	収集運搬量	2,732	2,429	2,256	t
	中間処分量	3,415	3,109	2,915	t
売上高	(全社)	1142.0	1087.0		百万円
	(発寒エコセンター)	163.6	152.8	131.6	百万円
全従業員数		120	120	120	人
発寒エコセンター		10	10	10	人
床面積	全社	8,130.7	8,130.7	8,130.7	㎡
	発寒エコセンター	4,722.6	4,722.6	4,722.6	㎡

※全社の売上については、決算月の関係で空欄となっております。

□許可の内容（事業計画の概要、処理業の許可証）

1　産業廃棄物の収集運搬及び破砕をする中で有価物を回収して資源化を図る。
2　処分場の受け入れ条件を満たすため、排出事業者等の廃棄物を破砕処理する。
3　許可の内容

		許可期間	許可番号	許可対象産業廃棄物
産業廃棄物処分業	札幌市	H.28.9.19 R.5.9.18	第05120004828号	廃プラスチック類、金属くず、ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず、がれき類、木くず、紙くず、繊維くず
産業廃棄物収集運搬業	北海道	H.30.7.29 H.35.7.28	第00100004828号	燃え殻、汚泥、廃油、廃酸、廃アルカリ、廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、動植物性残さ、ゴムくず、金属くず、ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず、がれき類、動物のふん尿
特別管理産業廃棄物収集運搬業	札幌市	H.30.7.1 H.35.6.30	第05160004828号	廃油、廃酸、廃アルカリ、廃石綿等
特別管理産業廃棄物収集運搬業	北海道	H.30.7.14 H.35.7.13	第00150004828	廃油、廃酸、廃アルカリ、廃石綿等
金属くず商	公安委員会		第15号	

4　積替保管場所　廃バッテリー
住所　札幌市西区二十四軒3条1丁目8番、9番　　面積　5.4㎡　　保管上限　9.8㎡

□施設及び処理の状況

1　収集運搬業

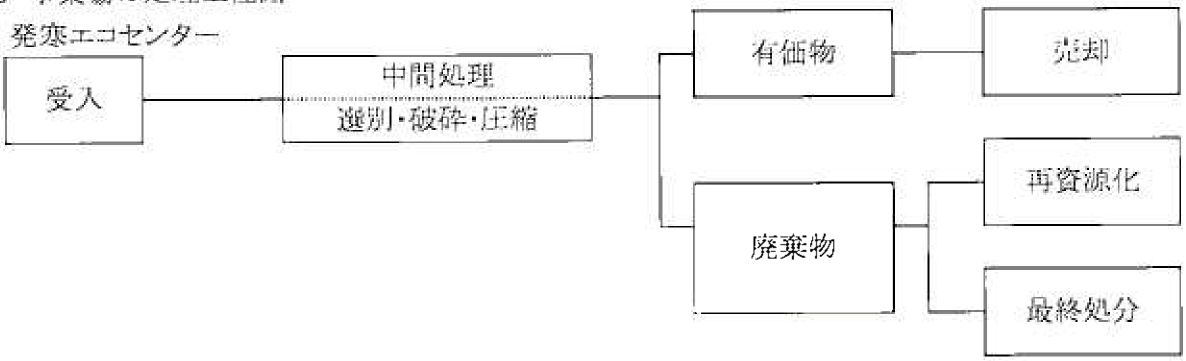
運搬車輌の名称	車両ナンバー	積載量	備考
キャブオーバー	札幌11な6237	9.60t	※対象範囲
キャブオーバー	札幌100せ1266	2.75t	ユニック付き　※対象範囲
脱着装置付コンテナ専用車	札幌100は3579	11.30t	※対象範囲
塵芥車	札幌800は1351	3.25t	※対象範囲
塵芥車	札幌800は1193	3.35t	※対象範囲
塵芥車	札幌800は2044	4.20t	※対象範囲
ダンプ	札幌100は256	4.50t	クラムシェル付き
バン	札幌100す3047	4.00t	
バン	札幌100す8394	3.10t	
キャブオーバー	札幌100は3688	6.00t	ユニック付き
バン	札幌100た3730	2.60t	
バン	札幌100て7037	2.55t	
バン	札幌400と480	0.40t	乗車定員2人 0.40t　乗車定員5人 0.25t
ピックアップ	札幌480き5214	0.25t	
バン	札幌100ち9416	3.00t	
キャブオーバー	札幌100て26	2.00t	
キャブオーバー	札幌100つ6673	2.00t	

2　処分(中間処理)業

処理施設の種類	中間処理
許可対象産業廃棄物	廃プラスチック類、金属くず、ガラスくず、コンクリートくず　及び陶磁器くず、がれき類、木くず、紙くず、繊維くず
設置年月日	平成21年5月27日
設置場所	札幌市西区発寒13条12丁目1番1号
事業の範囲	1、溶融・固化(廃プラスチック類)　1.20t/日 2、破砕・選別(廃プラスチック類)　4.5t/日 3、選別　(廃プラスチック類)　16.0t/日 4、選別　(廃プラスチック類、金属くず、ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず)　40.0t/日 5、選別　(汚泥、金属くず《廃乾電池に限る》)　0.6t/日 6、破砕　(ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず《廃蛍光管に限る》)　2.56t/日 7、選別　(廃プラスチック類、金属くず、ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず《廃OA機器、廃家電に限る》)　4.5t/日 8、選別　(廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、金属くず、ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず、がれき類《木製パレット、建設系廃材等に限る》)　14.0t/日 9圧縮　(廃プラスチック類)　0.92t/日
処理方式	1、溶融・固化　2、破砕　3、選別　4、圧縮
構造・施設の概要	該当施設なし

3　事業場の処理工程図

発寒エコセンター



4　処理実績

中間処理の実績（R2年4月～R3年3月）　単位：t

	廃プラスチック類	金属くず	ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず	がれき類	木くず	紙くず	繊維くず	計
処理量(t)	2333	499	157	43	77	0	0	3,109

※うち最終処分量205.4t

中間処理の実績（R3年4月～R4年3月）　単位：t

	廃プラスチック類	金属くず	ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず	がれき類	木くず	紙くず	繊維くず	計
処理量(t)	2161	551	130	23	50	0	0	2,915

※うち最終処分量170.6t

2　対象範囲

□認証・登録対象事業所　　発寒エコセンター

対象従業員数：10名

環境管理責任者及び連絡先　　資源リサイクル部　課長　笠野善史

連絡先　　　電話：011-611-9291　　FAX:011-642-5460

e-mail　：　sds@daiichiseisou.co.jp

URL　http://www.daiichiseisou.co.jp/

事業内容

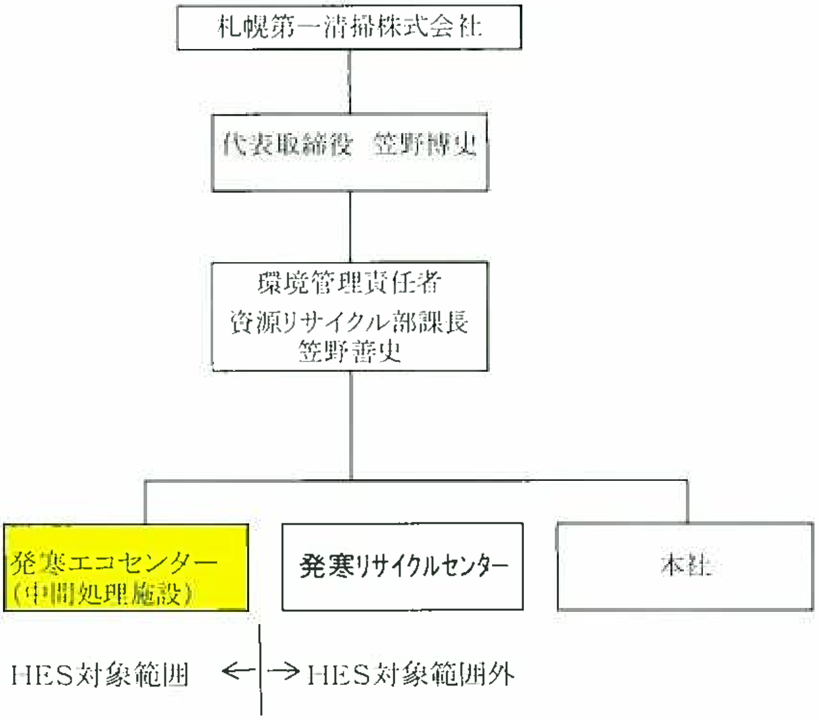
産業廃棄物の選別・破砕・圧縮・分解等によるリサイクル事業・適正処理及びそれに関するサービスの提供

レポートの対象期間及び発行年月日

R3年4月～R4年3月　　　R4年6月1日発行

□組織体制

【組織体制図】



【地域融和】

当社の施設は、利害関係者に対し公開するので、事前にご連絡してください。

【環境保全への取組み】

ISO14001を2003年7月から2015年7月まで運用している。

優良産廃業者認定取得　2014年8月

エコアクション21相互認証取得　2015年6月

環境に関する基本方針

札幌第一清掃株式会株社発寒エコセンターにおける、継続的な環境の保全と改善に関する取り組みについての基本理念及び基本方針として次のとおり定めこれを社内外に公表します。

＜基本理念＞

札幌第一清掃株式会社発寒エコセンターは、地球温暖化やオゾン層破壊、資源の枯渇など、地球環境問題が人類共通の重要問題であると認識すると共に、環境事業のパイオニアとして率先し、継続的に環境の負荷を低減し、環境を保全するための事業活動を積極的に実施することにより、「リサイクルで地球の未来を拓く」の実現を目指します。

＜基本方針＞

札幌第一清掃株式会社発寒エコセンターは環境改善に関する環境目的、環境目標を設定し継続的改善と汚染の防止に積極的に取り組むため下記の方針に基づき、環境マネジメントシステムに取り組みます。

1．札幌第一清掃株式会社発寒エコセンターは環境関連の法律、規制、条例などの基準を遵守すると共に、環境マネジメントシステムによる手順を整備し、継続的な改善を図ります。

2．リサイクル事業活動を通じ、省資源、省エネルギーの推進、廃棄物の削減、臭気・騒音の低減等、健全な環境の維持向上に努めると共に、環境に配慮したサービスの提供に努めます。具体的には以下の項目を環境改善活動の重点テーマとして取り組みます。

（１）電気使用量の削減

（２）化石燃料の削減

（３）廃棄物排出量の削減

（４）受入産廃処理量の増大

（５）水使用量の削減

3．従業員が環境への意識高揚を図り、環境方針に沿った行動を行うように従業員教育を行います。

4．リデュース（廃棄物発生抑制）リユース（再使用）リサイクル（原材料再使用）の実行を目指し、顧客ニーズに応える体制作りとより優れたサービスと技術を目指します。

5．社外に公表する手段として、ホームページ及び会社案内に掲載します。また、本社及び発寒エコセンター内に掲示します。

6．地域密着型の環境保護活動に積極的に参画します。

２０１４年　４月　１日　制定

２０２１年１０月２５日　改定

札幌第一清掃株式会社

代表取締役　笠野博史

4 環境目標

環境目標及び目的

中長期目標は、次表のとおり。

目標項目			基準値		中長期目標				目標
			実数又は原単位	単位	R2年度	R3年度	R4年度		
削減		CO2排出量	79,458.00	kg-CO2	基準値以下	基準値以下	基準値以下		基準値以下
削減	投入エネルギー量の内訳等	電力（原単位）	14.75	kWh	基準値以下	基準値以下	基準値以下		基準値以下
削減	投入エネルギー量の内訳等	灯油	1,184	L	基準値以下	基準値以下	基準値以下		基準値以下
削減	投入エネルギー量の内訳等	軽油（原単位）	4.72	L	基準値以下	基準値以下	基準値以下		基準値以下
削減	投入エネルギー量の内訳等								
削減		水道水投入量	84	m^3	基準値以下	基準値以下	基準値以下		基準値以下
削減		廃棄物量（原単位）	91.2	kg	基準値以下	基準値以下	基準値以下		基準値以下
増大		受入産廃量	3,264	t	+5%（3585t）	+5%（3264t）	+5%（3427t）		+5%（3427t）

※ 環境目標の設定等について

1 温室効果ガス関係

CO2排出係数は、北海道電力のH25年度実排出係数（0．678kg/kWh）とする。

2 水道水は、生活用水のみであり、±0%とする。

3 廃棄物量は、事業系一般廃棄物および産業廃棄物の合計排出量である。

4 産業廃棄物受入量は市況に依存するが、前年度の5%アップを努力目標とした。

5 電力は2019年度（基準年度）の原単位維持を目標とした。

6 軽油は2019年度（基準年度）の原単位維持を目標とした。

7 灯油は2019年度の実績値維持を目標とした。

5 環境活動計画

1 総エネルギー投入量の削減

1 消費電力の削減

- 工場で使用していない場所の照明は消灯する。
- 複写機は、常時使用していないため、使用時のみ電源を入れる。
- 事務機器及び蛍光灯は、交換時期には省エネタイプに取り替える。

2 化石燃料の効率化

- 冬期間の初期運転以外は、アイドリングSTOPを励行する。
- 急発進・急加速等アクセルむらのない安全運転を励行する。

3 暖房等燃料の効率化

- 冬期間の暖房は、温度計を設置して20～23℃を守る。

2 水道水使用量の削減

1 洗い物はまとめ洗いをする。

2 水使用時は、給水ハンドルを全開しないことを守る。

3　廃棄物最終処分量の削減

1)　当社が排出する廃棄物は、廃棄物処理業の性格上次のとおりとする。

1　工場で従業員が排出する弁当の廃容器等

2　有価物を拾集した後に排出した選別後廃棄物

2)　上記廃棄物の単純な削減は、事業の衰退を招くため、数値上は±0%(参考値)とする。

1　受注した循環資源は、可能な限り分別・選別して資源化して埋立量を削減する。

4　受入産廃量の増加

1　循環資源の増加を推進する。

2　循環資源受入量は、当社の本来事業のため、目的達成の可否にかかわらず増加を図る。

3　リサイクル事業の普及啓発をして原料の収集に努める。

4　リサイクル率の向上のため、同業種と連携して技術研鑽を図る。

5　リサイクル資源について、販路拡大のため、各種企業との連絡調整に努める。

6　環境目標の実績

R3年度の実績は、次表のとおりであった。

項目			基準値		R3年度実績(R3年4月～R4年3月)				
			実数又は原単位	単位	目標	実績	基準値差	増減率	達成度
削減	CO2排出量		79,458.00	kg-CO2	基準値以下	72,798.00	-6,660.0	-8.4%	○
削減	投入エネルギー等の内訳	電力（原単位）	14.75	kWh	基準値以下	14.34	-0.4	-2.8%	○
削減	投入エネルギー等の内訳	灯油	1,184	L	基準値以下	1,857	673.0	56.8%	×
削減	投入エネルギー等の内訳	軽油（原単位）	4.72	L	基準値以下	5.20	0.5	10.2%	△
削減	投入エネルギー等の内訳								
削減	投入エネルギー等の内訳								
削減	水道水使用量		84	m^3	基準値以下	92	8.0	9.5%	△
削減	廃棄物量（原単位）		91.2	kg	基準値以下	57.6	-33.60	-36.8%	○
増大	受入産廃量		3,264	t	+5%	2,916	-348.0	-10.7%	×
増大	グリーン購入促進		-	件	適宜		-	-	
総エネルギー投入量			1,210,264.0	MJ	基準値以下	1,058,814.0		-12.5%	○

※　電力CO2排出係数は、北海道電力のH25年度実排出係数(0.678)を採用した。

7 環境活動計画の取組結果とその評価、次年度取組内容

1 温室効果ガスの削減

(1) 種類別排出量の分析

・電力使用量は目標値14.75kWh/tに対して、14.34kWh/tと2.8%減となり目標達成となった。
10月に場内の照明をLEDに交換したことが大きな要因であった。次年度も継続して取り組む。
・灯油使用量は目標値1,184ℓに対して、56.8%増加の1,857ℓとなり目標を達成できなかった。
ただ昨冬は、記録的な大雪で収集運搬業務が大きく遅れる毎日となり、それに伴いセンターの残業時間も大幅に増えてしまったことが大きな原因であるので、取り組み内容には問題はなかったと考え、次年度以降も継続して取り組むこととする。
・軽油使用量は、目標値4.72ℓ/tに対し、5.20ℓ/tと10.16%増となり目標達成できなかった。
ただ、大雪によりセンターの車両を収集運搬業務で使用することが多くなったことが原因のひとつと考えられるので、次年度以降も継続して取り組み様子をみたい。

(2) 温室効果ガスの総排出量の評価

二酸化炭素は目標値79,458 kg-CO2に対して、72,798kg-CO2排出となっており、8.4%の削減となった。昨年に引き続きコロナの影響で廃棄物量が減ったこともあるが、目標を達成できたことは一人従業員一人の意識が高まったとも言える。来年度はさらに削減できるように取り組みたい。
なお、原単位による比較では、次のとおりある。

CO2排出量(kg-CO2)

	単位	基準値	R3年度	増減率
処理量当たり	kg-CO2/t	23.26	24.96	7.31%

2 水道水の削減

水道水は基準値が84㎥使用に対し、92㎥と目標達成できなかった。
来年度は削減できるように、教育訓練等で今一度理解を深めて取り組みたい。

3 埋立廃棄物の削減

埋立量は目標値91.2kgに対して57.6kgと36.8%削減とし、目標達成した。
来年度も継続して取り組む。

(2) 産業廃棄物量は、受託量により増減するため、今後も参考である。

4 受入産廃量の増加

受入産廃量は目標値3,264tに対して、2916tと10.7%下回った。実績で見ても昨年度より6.2%減となったが、今年度もコロナの影響で、産業廃棄物に限らず廃棄物全体が減ったこともあり、この結果は致し方ないが、次年度もまだまだコロナの影響が続くと予想されるので、取り組み内容を検討して取り組んで行きたい。

8 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

1 環境関連法規は、毎年1月に行政機関のHP等で改廃等をチェックしている。
令和4年3月31日に順守状況を確認している。

適用法令	主な要求事項	確認状況
廃棄物処理法	・産廃の処理(運搬・保管・処分)基準、管理票の交付・回付・報告規定 ・受入量及び保管量の厳守、許可品目以外の受入禁止 ・産廃運搬車両に係る表示及び書面備え付け義務	順守確認
消防法・条例	灯油タンクの材質・保管基準等、灯油タンク設置基準(札幌市条例)	届出で確認
道路運送車両法	車両の排ガス・騒音規定	車検で確認
廃家電リサイクル法	排出者のリサイクル規定	順守確認
廃自動車リサイクル法	排出者のリサイクル規定	順守確認
資源有効利用促進法	再資源化義務	順守確認
労働安全衛生法	労働災害の防止、フォークリフト・ショベルローダーの運転資格	順守確認
フロン排出抑制法	第一種特定機器、委託確認書の回付・写しの保存、引取証明書の保存等	順守確認
バーゼル法	特定有害廃棄物等の輸出入等の規制、規制対象(外)の確認等	順守確認
札幌市生活環境の確保に関する条例	自動車使用管理計画、環境保全行動計画の届け出、北海道循環税等	順守確認
自社基準	車両運行経路、騒音・振動に関する自主規制	順守確認
グリーン購入法	事業者の環境物品等の取入れ規定	適宜実施

2 過去3年間に関係当局から違反の指摘もなく訴訟の事実もありません。

9 代表者による全体評価と見直しの結果

1 環境目標については、昨年度に引き続き受入量をはじめ目標達成できなかったものが多かったが、コロナや人員不足の影響もあり致し方ない部分もある。次年度もまだコロナウイルスの影響は続くと思われるので、取り組み内容を再検討して少しでも改善、達成できるように取り組むこと。
2 環境活動計画を精査すること。
3 環境関連法規については変更なしとする。
4 その他
今年度も昨年度に続きコロナウイルスの影響がセンターの運営にも大きく影響し、廃棄物の量も落ち込み、人員不足も解消されない一年となった。そんな中でも、埋立量を削減できたり、照明をLEDに換え電力使用量を削減できたりと、従業員の理解と取り組みは評価できるものだった。次年度以降もコロナウイルスの影響は続くと思われるが、目標には取り組み内容を再検討しながら継続して取り組み、センターの運営を通して経費削減や利益向上につながるように努力してほしい。